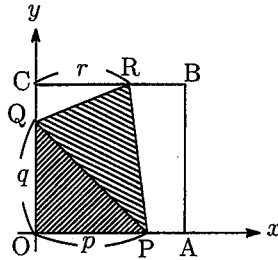


第 1 問

(1) P, Q, R がそれぞれ辺 OA, OC, BC 上 (両端点を含む) にあるための条件は,

$$0 \leq p \leq 1, \quad 0 \leq q \leq 1, \quad 0 \leq r \leq 1.$$



まず, 三角形 OPQ の面積は

$$\frac{1}{2} OP \cdot OQ = \frac{1}{2} pq$$

であり, これが  $\frac{1}{3}$  に等しいことから,

$$pq = \frac{2}{3}. \quad \dots \textcircled{1}$$

また, 三角形 PQR の面積は

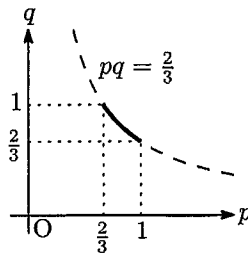
$$\begin{aligned} \Delta PQR &= (\text{台形 OPRC の面積}) - \Delta OPQ - \Delta CQR \\ &= \frac{1}{2} (OP + CR) \cdot OC - \frac{1}{3} - \frac{1}{2} CQ \cdot CR \\ &= \frac{1}{2} (p + r) \cdot 1 - \frac{1}{3} - \frac{1}{2} (1 - q)r \\ &= \frac{1}{2} (p + qr) - \frac{1}{3} \end{aligned}$$

であり, これが  $\frac{1}{3}$  に等しいことから,

$$p + qr = \frac{4}{3}. \quad \dots \textcircled{2}$$

①と  $0 \leq p \leq 1, 0 \leq q \leq 1$  を満たす  $p, q$  のとりうる値の範囲は, 双曲線  $pq = \frac{2}{3}$  を考え,

$$\frac{2}{3} \leq p \leq 1, \quad \frac{2}{3} \leq q \leq 1.$$

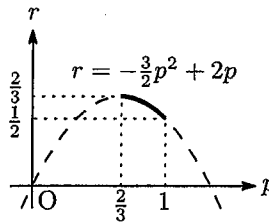


第1問(つづき)

また、①より  $q = \frac{2}{3p}$  であり、これと②より、

$$p + \frac{2}{3p} \cdot r = \frac{4}{3}, \text{ すなわち } r = 2p - \frac{3}{2}p^2 = -\frac{3}{2}\left(p - \frac{2}{3}\right)^2 + \frac{2}{3}$$

であり、 $p$  が  $\frac{2}{3} \leq p \leq 1$  の範囲を動くとき、 $r$  は  $\frac{1}{2} \leq r \leq \frac{2}{3}$  の範囲を動く。このとき  $0 \leq r \leq 1$  を満たす。



以上により、 $q, r$  を  $p$  を用いて表すと、

$$q = \frac{2}{3p}, \quad r = 2p - \frac{3}{2}p^2 \quad \dots(\text{答})$$

であり、 $p, q, r$  それぞれのとりうる値の範囲は

$$\frac{2}{3} \leq p \leq 1, \quad \frac{2}{3} \leq q \leq 1, \quad \frac{1}{2} \leq r \leq \frac{2}{3}. \quad \dots(\text{答})$$

(2) (1) の条件下で

$$\frac{\text{CR}}{\text{OQ}} = \frac{r}{q} = \frac{3p}{2} \left( 2p - \frac{3}{2}p^2 \right) = -\frac{9}{4}p^3 + 3p^2$$

と表すことができる。

$$f(p) = -\frac{9}{4}p^3 + 3p^2$$

とおくと、

$$f'(p) = -\frac{27}{4}p \left( p - \frac{8}{9} \right)$$

より、 $\frac{2}{3} \leq p \leq 1$  における  $f(p)$  の増減は次の通り。

$p$	$\frac{2}{3}$	$\dots$	$\frac{8}{9}$	$\dots$	1
$f'(p)$		+	0	-	
$f(p)$	$\frac{2}{3}$	$\nearrow$	$\frac{64}{81}$	$\searrow$	$\frac{3}{4}$

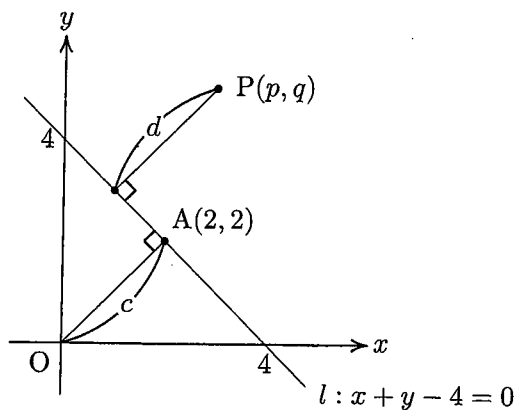
したがって、 $\frac{\text{CR}}{\text{OQ}}$  の

$$\text{最大値は } \frac{64}{81}, \quad \text{最小値は } \frac{2}{3} \quad \dots(\text{答})$$

である。

第2問

(1)



条件1より,

$$8 \leq \vec{OA} \cdot \vec{OP} \leq 17.$$

$$8 \leq 2p + 2q \leq 17.$$

$$4 \leq p + q \leq \frac{17}{2}.$$

$$-p + 4 \leq q \leq -p + \frac{17}{2}. \quad \dots \textcircled{1}$$

①より,  $p + q - 4 \geq 0$  であることに注意して,

$$c = 2\sqrt{2}, \quad d = \frac{|p + q - 4|}{\sqrt{2}} = \frac{p + q - 4}{\sqrt{2}}.$$

したがって, 条件②より,

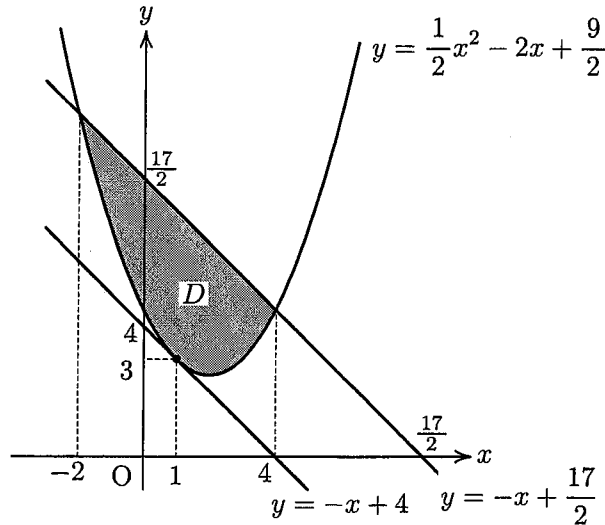
$$cd \geq (p - 1)^2.$$

$$2(p + q - 4) \geq (p - 1)^2.$$

$$q \geq \frac{1}{2}p^2 - 2p + \frac{9}{2} \left( = \frac{1}{2}(p - 2)^2 + \frac{5}{2} \right). \quad \dots \textcircled{2}$$

①かつ②を満たす点  $(p, q)$  の全体が  $D$  であり, それを図示すると次図の灰色部分 (境界含む) となる. ただし, 放物線  $y = \frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2}$  は直線  $y = -x + 4$  と点  $(1, 3)$  において接している.

第2問 (つづき1)



…(答)

また,

$$\frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2} = -x + \frac{17}{2}$$

とすると,

$$x = -2, 4$$

であるから,  $D$  の面積は,

$$\begin{aligned} \int_{-2}^4 \left\{ \left(-x + \frac{17}{2}\right) - \left(\frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2}\right) \right\} dx &= \int_{-2}^4 \left(-\frac{1}{2}x^2 + x + 4\right) dx \\ &= -\frac{1}{2} \int_{-2}^4 (x+2)(x-4) dx \\ &= -\frac{1}{2} \times \left\{ -\frac{1}{6}(4+2)^3 \right\} \\ &= 18. \end{aligned}$$

…(答)

(2) まず, 直線  $y = kx$  と放物線  $y = \frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2}$  が接するときの  $k$  の値とそのときの接点の  $x$  座標を求める. 連立して  $y$  を消去して,

$$\frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2} = kx.$$

$$x^2 - 2(k+2)x + 9 = 0.$$

(判別式)/4 =  $(k+2)^2 - 9 = 0$  として,

$$k = 1, -5.$$

$k = 1$  のとき,  $x = 3$ (重解),  $k = -5$  のとき,  $x = -3$ (重解).

第2問 (つづき2)

これより、直線  $y = x$  と放物線  $y = \frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2}$  の接点は  $D$  に属するが、直線  $y = -5x$  と放物線  $y = \frac{1}{2}x^2 - 2x + \frac{9}{2}$  の接点は  $D$  に属さない。

下の図より、 $P$  が  $D$  上を動くとき、 $x$  軸の正の部分と線分  $OP$  のなす角  $\theta$  は、 $0 < \theta < \pi$  の範囲にあり、この範囲で  $\cos \theta$  は  $\theta$  について単調減少である。

よって、 $\cos \theta$  が最大、つまり  $\theta$  が最小となるのは、直線  $OP$  の傾きが 1 のときであり、このとき、

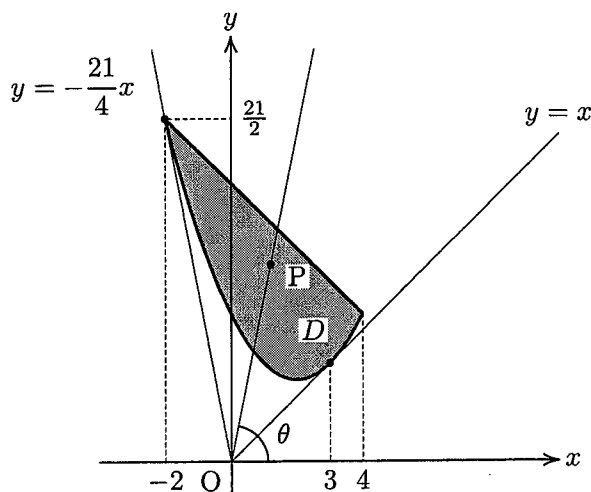
$$\cos \theta = \cos \frac{\pi}{4} = \frac{1}{\sqrt{2}}.$$

また、 $\cos \theta$  が最小、つまり  $\theta$  が最大となるのは、直線  $OP$  が点  $(-2, \frac{21}{2})$  を通るときで、このとき、

$$\tan \theta = -\frac{21}{4} \quad (0 < \theta < \pi) \text{ より、} \cos \theta = -\frac{4}{\sqrt{457}}.$$

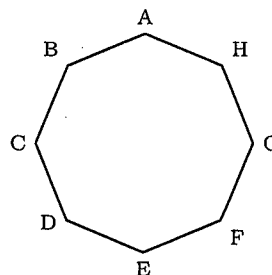
以上より、 $\cos \theta$  のとりうる値の範囲は、

$$-\frac{4}{\sqrt{457}} \leq \cos \theta \leq \frac{1}{\sqrt{2}}. \quad \dots(\text{答})$$



第3問

(1) 10回操作を行ったとき、点Pは正八角形上を2周以上はしないから、点Pが点Aに達するのは、



- (ア) 点Aに達するまでに反時計回りに1周している、
- (イ) 点Aに達するまでに時計回りに1周している、
- (ウ) 点Aに達するまでに1周もしない

のいずれかである。

10回の操作のうち、表が  $m$  回、裏が  $n$  回 ( $m, n$  は0以上の整数) だけ出るとすると、

$$m + n = 10 \quad \dots \textcircled{1} \quad \text{であり、}$$

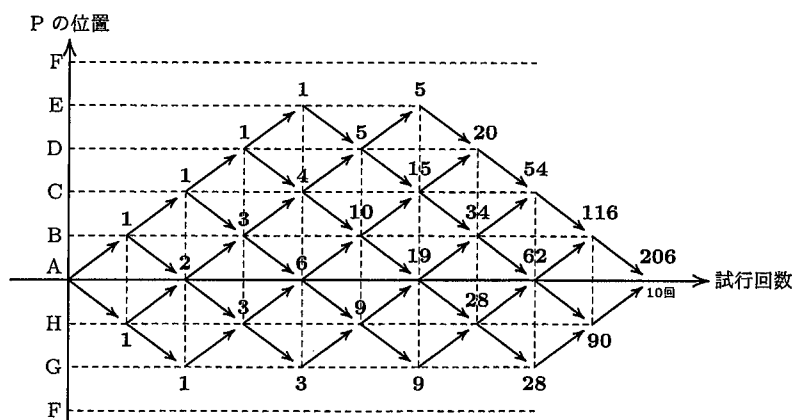
- (ア) のとき、  $m - n = 8 \quad \dots \textcircled{2}$  であるから、 $\textcircled{1}$ かつ $\textcircled{2}$ より、 $(m, n) = (9, 1)$ 、
- (イ) のとき、  $m - n = -8 \quad \dots \textcircled{3}$  であるから、 $\textcircled{1}$ かつ $\textcircled{3}$ より、 $(m, n) = (1, 9)$ 、
- (ウ) のとき、  $m - n = 0 \quad \dots \textcircled{4}$  であるから、 $\textcircled{1}$ かつ $\textcircled{4}$ より、 $(m, n) = (5, 5)$ 。

よって、求める確率は、

$$P(S) = {}_{10}C_9 \left(\frac{1}{2}\right)^9 \left(\frac{1}{2}\right)^1 + {}_{10}C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^1 \left(\frac{1}{2}\right)^9 + {}_{10}C_5 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \left(\frac{1}{2}\right)^5 = \frac{272}{2^{10}} = \frac{17}{64} \quad \dots (\text{答})$$

(2)  $S \cap \bar{T}$  を考えると、(1)における(ア)と(イ)の場合はすべて点Fを通るから、 $S \cap \bar{T}$  は(ウ)において点Fを通らない事象である。このようなコインの出方を、次のような経路を用いて考える。

(図中の数字は、その点に至るまでの最短経路数を表す。)



上の図より、点Fを通らないコインの出方は206通りであるから、

$$P(S \cap \bar{T}) = \frac{206}{2^{10}} = \frac{103}{512} \quad \dots$$

よって、求める確率は、

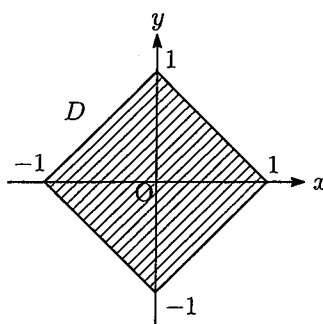
$$P(S \cap T) = P(S) - P(S \cap \bar{T}) = \frac{17}{64} - \frac{103}{512} = \frac{33}{512} \quad \dots (\text{答})$$

第4問

(1)  $|x| + |y| \leq 1$  より,

$$\begin{cases} x+y \leq 1 & \text{すなわち, } y \leq -x+1 \quad (x \geq 0, y \geq 0 \text{ のとき}), \\ -x+y \leq 1 & \text{すなわち, } y \leq x+1 \quad (x < 0, y \geq 0 \text{ のとき}), \\ x-y \leq 1 & \text{すなわち, } y \geq x-1 \quad (x \geq 0, y < 0 \text{ のとき}), \\ -x-y \leq 1 & \text{すなわち, } y \geq -x-1 \quad (x < 0, y < 0 \text{ のとき}). \end{cases}$$

よって,  $D$  は次の図の斜線部分のようになる (境界含む).

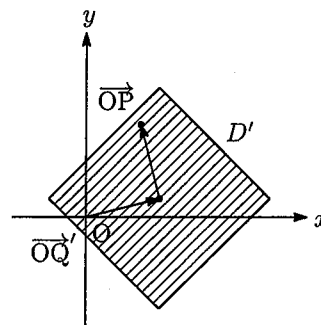


.....(答)

次に,  $\vec{OR} = \vec{OP} - \vec{OQ}$  について,  $\vec{OQ}' = -\vec{OQ}$  とおくと

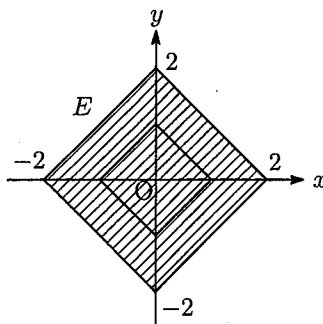
$$\vec{OR} = \vec{OP} + \vec{OQ}' = \vec{OQ}' + \vec{OP}$$

となるから, まず点  $Q'$  を固定して点  $P$  が領域  $D$  を動くときに点  $R$  が動く範囲を求めると, それは  $D$  を  $\vec{OQ}'$  だけ平行移動して得られる領域になる (この領域を  $D'$  とする).



一方,  $D$  は原点について対称な領域であり,  $\vec{OQ}' = -\vec{OQ}$  で定まる点  $Q'$  は原点について点  $Q$  と対称であるから,  $Q'$  が動く範囲も  $D$  自身になる.

以上より,  $E$  は  $Q'$  が  $D$  全体を動くときの,  $D'$  が通過しうる領域であるから, 次の図の斜線部分のようになる (境界含む).



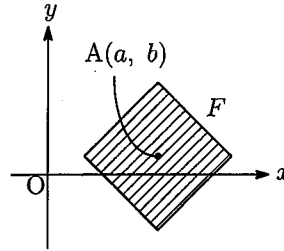
.....(答)

第4問 (つづき)

(2) 不等式

$$|x - a| + |y - b| \leq 1$$

が表す領域は、点  $(x - a, y - b)$  が領域  $D$  を動くような点  $(x, y)$  全体であるから、 $F$  は  $D$  を  $x$  軸方向に  $a$ 、 $y$  軸方向に  $b$  だけ平行移動して得られる領域である。



よって、 $A(a, b)$  とおけば、関係式

$$\vec{OS} = \vec{OA} + \vec{OP}, \vec{OT} = \vec{OA} + \vec{OQ}$$

によって領域  $D$  の任意の点  $P, Q$  と領域  $F$  の任意の点  $S, T$  は1対1に対応し、 $\vec{OU} = \vec{OS} - \vec{OT}$  より

$$\vec{OU} = (\vec{OA} + \vec{OP}) - (\vec{OA} + \vec{OQ}) = \vec{OP} - \vec{OQ} = \vec{OR}$$

となるから、点  $U$  が動く範囲  $G$  は点  $R$  が動く範囲  $E$  と一致することが分かる。 (証明終り)

【別解】

$S(X_1, Y_1), T(X_2, Y_2)$  とおくと、 $S, T$  は領域  $F$  を動くので

$$\begin{cases} |X_1 - a| + |Y_1 - b| \leq 1, \\ |X_2 - a| + |Y_2 - b| \leq 1. \end{cases} \dots\dots ①$$

一方、 $\vec{OS} = (X_1, Y_1), \vec{OT} = (X_2, Y_2)$  より

$$\vec{OU} = \vec{OS} - \vec{OT} = (X_1 - X_2, Y_1 - Y_2)$$

となるから、 $U(x, y)$  とおけば、

$$\begin{cases} x = X_1 - X_2, \\ y = Y_1 - Y_2. \end{cases} \dots\dots ②$$

よって、

$$\begin{cases} x_1 = X_1 - a, y_1 = Y_1 - b, \\ x_2 = X_2 - a, y_2 = Y_2 - b \end{cases}$$

とおけば、①、②は

$$\begin{cases} |x_1| + |y_1| \leq 1, \\ |x_2| + |y_2| \leq 1 \\ x = (X_1 - a) - (X_2 - a) = x_1 - x_2, \\ y = (Y_1 - b) - (Y_2 - b) = y_1 - y_2 \end{cases}$$

と変形できるので、これは点  $P(x_1, y_1), Q(x_2, y_2)$  が領域  $D$  を動くときの、 $\vec{OU} = \vec{OP} - \vec{OQ}$  を満たす点  $U$  が動く範囲が  $G$  であることを表すので、 $G$  は  $E$  と一致する。 (証明終り)